

平成20年10月2日(木)
岡谷市基本構想審議会
午後1時30分～4時

第3回岡谷市基本構想審議会 会 議 録

(出席者)

○委員・・・15人

井口 光世委員、小口 直美委員、小口 博正委員、小口 光子委員、河西 万里子委員、
笠原 新太郎委員、谷口 久雄委員、中村 俣明委員、成澤 富美子委員、林 勝利委員、
林 健一委員、羽山 幸良委員、三澤 勝委員、宮坂 秀子委員、山岡 晴男委員

(説明者)

○担当部課・・・

福祉環境部長 中嶋政春 福祉政策担当参事 小口啓子
社会福祉課長 松本哲郎 介護福祉課長 小林直太 同課 宮沢副参事
健康推進課長 中里義昭 同課 小口副参事 橋爪副参事
経済部長 小泉光世 工業振興課長 杉本研一 商業観光課長 向山博志
農林水産課長 涌井秀俊
病院事業統括事務部長 茅野重光 経営企画課長 金原亮吉
岡谷病院業務課長 都築光雄 塩嶺病院業務課長 宮坂春夫

○事務局・・・8人

総務部長 中田富雄、総務部企画担当参事 矢島政樹、
企画課まちづくり政策主幹 小坂英之、同 小口智行、同 岡本典幸、
同課広域行政主幹兼まちづくり政策主幹 両角 秀孝
同課 主査 原 尚彦、主任 伊藤 清和

第3回岡谷市基本構想審議会

平成20年10月2日(木)

午後1時30分～4時

市役所605会議室

次 第

岡谷市民憲章唱和

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

(1) 全体説明 「基本目標1」、「基本目標2」

小坂主幹	<p>お手元の資料を確認させていただきます。小さな紙には、次回10月7日の希望される部会に○をつけていただき、部会に分かれる時に回収させていただきます。部会分けにつきましては、最後全体会議の時に、ご覧いただき調整させていただきます。その次に第3回の審議会の次第があります。その裏には、部会の進行の時間の目安ということで、作ってありますので、部会に分かれたときに、ご覧いただきたいと思います。その下に次回第4回の開催通知を入れてあります。後ほど再度ご案内させていただきます。その次には部会審議意見等連絡票というものがありますが、これは次回第4回までにご意見、質問等を記入していただくための用紙です。めくっていただいて、第3回審議会資料No.1とあります。今回部会に分かれていただきますが、委員の皆さんご自身が属さない部会に対する意見や質問等のお送りいただいた分をまとめてあります。それぞれの部会でご覧いただき、参考にして審議を深めていただきたいと思います。最後の資料が第3回の資料のNo.2になります。パブリックコメントということで、意見を寄せていただきました。9月30日までの期限ということで、寄せていただいたものをまとめてあります。表裏全部で13件の意見をいただいておりますので、参考にしていただければと思います。</p>
座長	<p>これから具体的な審議に入るわけですが、今日の審議の進め方につきまして、前回同様2つの部会に分かれてご審議をいただくという進め方をお願いしたいと思います。また今回からそれぞれの部会の司会役につきましては、市の方で担当いただくということで了解をいただいております。</p> <p>審議に入る前に、前回の審議の内容も踏まえながら何か御意見、ご希望があれば出していただきたいと思います。</p>
委員	(無し)
座長	それでは、本日の審議対象であります基本目標1、2について担

小泉経済部長

当の部長さんからご説明いただきますので、よろしくお願いします。

経済部長の小泉でございます。よろしくお願いします。

まず基本目標1の「魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち」について説明します。まず「政策1 基幹産業の振興」の1の工業振興であります。これにつきましては、2つの観点からご説明申し上げます。

まず1つとしまして、昔から変わらないものという観点では、岡谷市の立地による制約があります。これにより工業では、小物の部品加工、製品の製造が主流となっております。したがって、これからも小物を対象とした独自技術や製品開発に取り組んでいかなければならないと思っております。これらの独自技術などを取得するために、現段階で目指すべきスマートデバイスへの企業の取り組みに対して、支援してまいりたいと思っております。また、これまでセイコーエプソンやオリンパスなど研究開発型で確固たる企業があり、地域企業を育成し、工業振興の推進役を果たしてくれていたわけですが、現在そのような役割を担う企業や、生産工場が少なくなってきました。したがって、大規模でなくても、それに準ずるような、中小企業を引っ張ってもらえるような研究開発型企業の誘致に努力してまいりたいと思っております。加えて、この地域のメリットである工業集積を維持するために企業が安心して操業できる環境を確保してまいりたいと思います。

もう1つとしまして、以前から変わったものという観点では経済のグローバル化があります。これにより、国際的規模での競争に打ち勝つために、増産物を製造する生産拠点が主として東アジアへシフトしてしまいました。その結果、国内では高付加価値製品の開発や高精度の部品加工などを取り扱うようになり、高度技術者や研究開発を手がける人材の育成・確保、高精度の設備、品質管理、外部資源の活用と国内外に対する営業販売力の強化、多額の資金などが求められ、これに対して既存企業への支援を行ってまいりたいと考えております。本市の工業振興を図るためには、絶えずイノベーションを醸成する環境づくりが必須のものと考え、各種施策に取り組んでまいりたいと思います。

次に2の「産業の振興」の1の商業の振興ですが、全国統一的手法による中心市街地の活性化を図るための再開発ビル、その核となった大型店が撤去し、周辺の商店街を衰退させましたし、この再開発ビルの建て直しには、かなりの精力を費やすことになりました。

これを教訓とし、現在岡谷TMOが核となり、商業者、消費者、行政、商工会議所が一体となり、このまちに合った商業活性化の手法を模索しております。これによって、地域密着型店舗の育成、魅力的な店舗の創造、商店街のにぎわいの創出を目指すと共に、それにあつた支援を行ってまいりたいと思っております。

次に施策2-2の「サービス業の振興」であります。従業員数において第3次産業の比率が50%を超えている中で、今後もサービス経済化の進展により、サービス需要の増加が見込まれます。そ

のため、産業支援型や生活支援型、また環境関連のサービス業の育成に取り組んでまいります。

施策2-3の「観光の振興」とありますが、これまでの観光を更に発展させるために、広域観光、並びに近代化産業遺産群の活用や、商工業・農林水産業と結びついた産業観光に力を入れてまいります。

施策2-4の「農林漁業の振興」ですが、農業につきましては日本の食糧自給率が39%という状況の中で、食の安全・安心、貿易摩擦、不安定な世界情勢を考え、農業後継者の確保や、遊休荒廃農地の解消など精力的に各種施策に取り組んでまいります。林業につきましては、災害防止や環境保全、水源かん養などのために岡谷市森林整備計画に基づき、適正な森林の維持管理を行ってまいります。

施策3の「勤労者対策の推進」の3-1の勤労者福祉の充実ですが、本市は中小企業が大半を占めておりそこにお勤めの従業員に対しまして、福利厚生の実現や余暇活動の実現に対する支援を行ってまいります。

施策3-2の「雇用対策の充実」ですが、若年人材の確保に加え、特に団塊の世代の退職や少子高齢化により労働力の減少が予想される中で、女性や、高齢者、外国人を労働者として見込んでいくことを企業、関係機関と一体となって取り組んでまいりたい。

中嶋福祉環境部長

次に基本目標2の関係ですが、福祉環境部長の中嶋と申します。よろしく申し上げます。

基本目標2「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」の福祉環境部に関わる基本的な考え方についてであります。まず第1には、市民の健康づくり、2つ目には地域福祉の推進、この2つを基本的な目標として計画を策定しています。

最初に市民の健康づくりについてですが、施策4の保健・医療の充実の中で、近年生活習慣病による医療費の増大、死亡率の増加が大きな社会問題となっています。まず、健康づくりの推進として市が策定した健康増進計画に基づいて、自分の健康は自分で守ること基本に市民の健康づくりの意識の醸成、地域や関係団体と連携を図りながら生活習慣病対策等、予防対策を含め、健康づくりの推進に力を入れてまいりたいと考えております。

予防対策としましては、各種検診を実施し、受診率の向上と保健指導を図ることにより、自らが疾病を防いでいく意識啓発に努めてまいります。また、感染症対策としては、予防接種率の向上、正しい情報の提供等に努め、新型の感染症には蔓延予防のための危機管理を含めた体制作りを検討してまいりたいと考えております。

母子保健では、核家族化が進行し、夫婦共働き家庭の増加など社会環境の変化の中で、安心して子どもを産み育てられるよう母子の健康管理の支援や、相談体制の充実を図り、親の育児不安の軽減に努めてまいりたいと思います。

医療体制については、社会や医療環境が大きく変化するなかで医師会等関係機関との連携を図り、誰もが安心して医療を受けられる

地域医療体制の充実を図ってまいります。

続きまして、地域福祉の推進でございますが、施策の6の福祉の充実として、地域住民の主体性と、自己責任を基本に行政、地域住民、団体等がそれぞれの特性に応じた役割を担い、協働による福祉コミュニティづくりが必要であると考えております。地域サポートセンター等の地域の支えあい体制など、本市にふさわしい地域福祉の確立という観点からの取り組みをしてまいりたいと考えております。

障害者福祉については、障害者福祉計画に基づき、地域生活への移行、就労支援という課題も含め、その人にあったサービスの利活用の推進が重要であり、特に障害者に対する理解を深め偏見や差別の解消に向けた啓発に努め、地域における障害者福祉環境の整備を進めてまいりたいと思います。

高齢者福祉については、急速な高齢化が進む中で、明るく活力のある超高齢社会の構築に向け、高齢者福祉計画に基づき、岡谷市の特色ある施策により推進してまいりたいと考えております。

また、社会保障では国民健康保険事業の安定した運営が重要であります。適正な保険税率による歳入確保と効果的な保健指導により医療費の抑制を図り健全経営に努めてまいります。

これからの地域福祉は、住民や地域でできることは、自らが主体的に取り組んでいただくわけでございます。また行政が責任を持って行う部分との役割分担をしながら、市民総参加による地域住民と行政との協働関係を築くことが必要であると考えております。

茅野病院事業統括事務部長

岡谷市病院事業統括事務部長の茅野でございます。よろしくお願ひします。

基本目標2の中で、岡谷市病院事業に係る部分として、岡谷市病院事業の概要並びに第4次岡谷市総合計画にか係る今後の施策の考え方についてご説明申し上げます。

岡谷市病院事業は平成18年4月、内科・外科のほか産婦人科・小児科など地域に密着した総合医療を担う市立岡谷病院と、循環器呼吸器疾患を中心とした高度専門医療を担う健康保険岡谷塩嶺病院が経営統合を行い、多様な医療ニーズに対応するための医療サービスの提供を行っております。現在医療を取り巻く環境は、医療制度改革の影響を受け、医師、看護師等の人材不足や医療費抑制に向けた構造改革など乗り越えるべき課題が山積しており、全国の自治体病院の約8割が赤字経営を余儀なくされているように非常に厳しい経営状況となっております。こうした状況におきまして、岡谷市病院事業としましては、第4次岡谷市総合計画における基本目標2「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」を目指すため、診療体制の維持充実を図ることを中心施策と位置づけながら、一つとして関係機関との連携を進め、岡谷市全体の医療の質の向上を図ること、2つとして生活習慣病、循環器疾患など専門特化した医療を担うこと、3つとして産科、小児科、救急医療など地域に必要な医療を提供す

座長	<p>ることのほか、P75の(2)岡谷市病院事業の整備充実においてお示ししましたように、必要な施策を進め将来に向けて地域医療の核となる新病院の建設を当面の目標とし経営を進めてまいりたいと考えておりますので、ご審議いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>部会に分かれての審議に入りたい。</p>
----	--

(2) A部会審議について

	目標に入る前に担当の職員の自己紹介
両角主幹	P-40、政策1の基幹産業の振興について審議をしたい。ご意見をお願いします。
D委員	岡谷市民憲章の関係で、これは昭和46年にできたものであるが、明るく豊かな近代都市とあるのを、都市ではなくて、基本目標でもまちとしているので、まちとできないか。また、市長は工業振興を第一として掲げているが、この辺からも工業振興を出したらどうか。
中田総務部長	市民憲章を直すという意味か。前回都市とまちの違いの説明をしたが、この市民憲章については、行政でどうこうというのは立場が違うと思う。これはつくるまでに相当な議論がされてつくられたもの。本文の中にも公害という言葉がでていて、この言葉についてもどうかという意見があったが、この場でこれそのものをどうするかという審議はここですべきものではないと思う。もし、直しが必要であれば、違うところでの議論が必要だと思う。
D委員	わかりました。
I委員	私は市民憲章推進協議会の事務局長をやっているが、協議会の中で市民憲章そのものを見直すべきという意見はでていない。だが、確かにずれが出ていると思うので、議題にはのせていきたいと思っている。
座長	憲章を変えらるとなると手順も大変であるので、第4次総合計画にいれる基本理念のところは市民憲章をそのまま入れるのではなくて、市民憲章の精神を基本とし、部分的に変更できる場所があれば変更したらどうかと部会でも意見が出た。具体的には公害という言葉が時代に即さないなど、微修正を是非検討いただきたいと思う。それが前回の部会の意向だったと思う。
D委員	現実とは言葉が合わなくなっている。
中田総務部長	前回ご提案いただいたので、課題としてどう対応できるかまた違うところで答えを出したいと思う。

D委員	第4次総合計画の中で工業振興を、なぜ第1に掲げたのか、その理由をもう少し細かく説明できますか。
中田総務部長	前回の前段の部分1章、2章の理念、将来都市像のところの説明をさせていただいたが、その時にその将来都市像になぜしたのかという話をした。その中で一番基本とするのが元気で輝くまちにするには、そのもととなる部分では、たくましいという部分をどこで作り上げるかというときに、その大基本として工業振興を掲げなければ、あらゆる施策の展開ができないということで岡谷市の一番の基本を産業振興としていこうと決めたもの。また、今まではハード中心の基本構想、総合計画という成り立ちだったが、ソフトな部分に方向転換せざるを得ないという時代の中で、どのようにまちをつくるかという基本的な部分として、足腰が強くてたくましいまちに重点を置いていく必要があるということから第1に産業を置くということを前回説明させていただいた。
D委員	事業をやる場合、税収面の関係がないと事業が進まないと思うが、工業振興は、税収を上げるためなのか、金利をあげるためなのかどういものなのか。
中田総務部長	端的に言えば、財政基盤が基本としてなければあらゆる施策の展開ができない。岡谷市を考えるうえでは、産業振興が一番基本となる。そこから税収が生まれるが、この税収を生み出すための産業は、充実させていかないといけない。
D委員	わかりました。
L委員	目標指標の狙いを教えて欲しい。
杉本工業振興課長	1-1工業の振興の目標数値は粗付加価値額ということで設定している。単なる売上げの高い、低いをみるのではなくて、実際に原材料費等を引いてあがりとして、企業が収益としてどれくらい確保したかを見る方が実際に企業が力をつけたかどうかもわかり、より適した指標ではないかとの判断のもとでこの指標を設定した。
D委員	P12の将来人口の想定ということで載っている表であるが、これだと平成2年～30年までだが、この工業振興のところは、平成10～18年で捕らえている。その辺の基準みたいなものがあるのか。
両角主幹	特にルール付けはしていない。説明しやすいような年代を取り上げている。
D委員	平成2年元年頃が6万人ということは、事業数が1200社あつ

	<p>たということなんですよ、そこらへんをある程度わかりながら人口の関係も計上されていると考えてこれから工業振興をという問題ではないかと思うけれど、昔のことはいいと言うけれど、そこら辺の考えはどうですか。</p>
中田総務部長	<p>ここに表しているものがそういう話であって、論議は大いにしてもらってかまわない。たまたまデータとしてここに載っているものがそういう表示であったということ。</p>
D委員	<p>現状と課題を見るとこれは本当なの、この問題点を見ると。企業の生産拠点が海外にシフトしたとか、いろいろのそういうことは平成2年頃からずっとそういう計画でやっているのか。そういうことを書いてあるということはそういう視点が必要ではないかと思うけどどうなのか。まあ、また参考として。</p>
座長	<p>現況は今に始まったことではなくて、第3次の時から始まったことだということを言いたいのですね。</p>
D委員	<p>その通りです。</p>
I委員	<p>この原因というのは、ここに書いてあることでいいのか。20年前も今でもこのような原因であるのか。原因が違うところにあると施策が間違ってくるので、それでこの原因の把握が正しいのかなと思った。</p>
両角主幹	<p>他にあるか。</p>
座長	<p>工業の振興は時代の流れから、困難な課題であると同時に、行政のできることに限りがある。工業用地、貸し工場の確保とあるが、具体的な候補地はあるか。</p>
小泉経済部長	<p>工業用地の調査をやっているが、採算ベースに合うかなど今計算しているところであるが、新しいところを開拓する部分と、今あるものの活用の両方の考え方がある。</p>
座長	<p>用地が何箇所かありそうということですね。</p>
小泉経済部長	<p>実現性があるかは、採算性の問題があるのではっきり言えない。</p>
座長	<p>スマートデバイス供給基地の実現とあるが、これは民間の人たちの意見なのか、行政が考えたことなのか、それとも第三者の学者による意見か教えて欲しい。</p>
杉本工業振興課長	<p>県が諏訪地域の工業の活性化の計画を立てたときに最初にスーパーデバイス基地ということを出して、高機能、高付加価値の製</p>

	品を供給できる基地をとということがあり、岡谷もその傘下に入っている。
座長	それに対して、地域の企業のみなさんの受け止め方と評価はどうか。
D委員	この前もそのような意見が出たが、この辺は小さな企業が多いのでスーパーデバイスと言われてもピンとこない。 この辺が市とうまく噛み合っているのかということがある。
座長	個人的な意見だが、具体的なことを行政としていうべきでないと思う。民間の人たちが必死に取り組んだものの集積したものが地域の産業の構造だと思う。それを行政が具体的に言うのはいかなものかと思う。東洋のスイスにしても行政が仕向けたのではなく、結果としてそうなったのだと思う。このような具体的な表現は外したほうがいいかなと思う。
小泉経済部長	スーパーデバイス、スマートデバイスというのが、製品になっているものというわけではなく、そういうものを目指すために、どういう技術を求めるのか、どういう製品を作っていくのかの目印みたいなものの総称として、スーパーデバイス、スマートデバイスを使って行きたい。
D委員	岡谷には5人以下の企業が多いという現状の中で、わかる人はわかるが半分以上はわからないと思う。
杉本工業振興課長	昔のスーパーデバイスと、今のスーパーデバイスは内容が変わってきていて、明確な定義ではなく、概念のようなもの。より付加価値のとれる商品を目指して行きたいという思いですので、大きい意味ではスーパーデバイスは昔から使われていることで大きくぶれているものではないと思う。
D委員	工業振興について、本当に工業の意見を取り入れてつくったほうがいいと思うが、もう少し民間の工業の長の話聞きながら方向を探るのも一つの手では。
小泉経済部長	工業活性化計画の中でアンケート調査をするなど、意見を反映させるようにしている。こちらとの整合性は取らないといけないと思う。
D委員	金属工業連合会をやっていたことがあるが、一部で、意見の集約はできない。市で問題提起はするが、民間で主導権を握って方向性を探る必要がある。なあなあグループの寄せ集めでは駄目。工業をやっている人の意見を聞いてそれで、市民の意見を聞くのもいいと思う。こういう場所に超零細企業の話は出ないと思う。

両角主幹	あらゆる意見を取り入れるというのは日常の業務や、工業活性化計画の中でそういったご意見を盛り込んでいければと思いますので、この議論についてはここまでにさせていただきたい。
座長	L委員が言われた指標の件だが、この目的に合致するのか疑問。もしこれがそのまま残るというのであれば、細かい数値にしないで、もう少しまるめたものにすべきである。
I委員	指標はそれなりの理由があってということなのですよ。
両角主幹	そうです。
I委員	ちなみに今回のどうしてこのような細かい数字になるのか教えてほしい。大体でいいです。
杉本工業振興課長	粗付加価値額について県のほうで統計をとっていて、それを引用している。推計額については、検討の余地がある。
D委員	P40の下に企業が活動しやすい環境整備を図りとあるが、具体的には何かあるか。
小泉経済部長	今のところ用途地域の見直しができるかどうか検討している。
D委員	できたら工業の活性化についてはできるだけ大企業を引っ張ってきてもらいたい。そうすれば、下請けの仕事がくるようになる。中小企業をどうこうやっても岡谷の活性化はできない。これは現実問題。そこを考えてもらわないと益々衰退してしまう。中堅の企業は海外に行ったりして代用すればいいが、超零細企業については余計に駄目になってしまう。会長みたいな人を長にして工業振興策を考えていっていただかないと駄目だ。
I委員	商業の方でもそうだが、民間では、自分で工夫したり、努力したり、店を広げるとかは、それぞれがやるべきこと。我々ではできないことを行政にやってもらう。企業誘致は民間でやることではない。その仕切りをきちんとして、行政だけでしかできないものをやるべきだと思う。
両角主幹	次に入ります。政策2産業の振興ということだが、商業、サービス業、観光、農林業の振興の施策を展開していくなかでの産業となっている。 ただいまの意見も含めてどうぞ。
A委員	工業と同じで第3次総合計画と同じようなところがある。第3次総合計画でどの位までできたというものがあるのか、どこまででき

	<p>た上で今回計画を策定したのかというのを教えてもらいたい。</p>
中田総務部長	<p>前段にある第3次計画の検証というところに大体は載っている。</p>
N委員	<p>P44の中で、駅の近くについての目標については、どんな捉え方をしているのか。ララの完成目標は。</p>
両角主幹	<p>経済部で担当しているものではなく今の総務部で担当しておりますので、担当から。</p>
小口主幹	<p>今の段階では石油製品、建設資材の高騰などで事業ができるかも含めて、いろいろな方向で検討しているところ。今ここでいつできるかより、状況見ながら判断しようとしているところ。ここ何年かで、できるかは未定である。</p>
N委員	<p>そういう答えだろうと思いました。ただ、実際に工業関係も全く同じである、もたないというのが実態であるので、私も岡谷TMOの一員でありますので、共にやっていきますけれども、やはり実際に岡谷市に協力をしてつくった、そこにいらした皆さんですから、目標設定していただいて、慣用ではないかなあと、計画はよかったが、ちょっと遅かったでは困る、そんなふうなお願いをしたい。</p>
D委員	<p>まちづくり活性化推進本部が設置されて岡谷TMOが、今現状はどういう方向なのか。具体的な政策は。</p>
向山商業観光課長	<p>基本構想に基づいてH18年5月にできて、具体的に何かといいますと、中期、長期でやること、長期というのはだいたい3年くらいを考えているわけでして。18年に実施計画を作りまして、経営のアドバイスとか、商業者とのネットワーク、イベントをやっていくという。</p>
D委員	<p>具体的にはまだ何もないのか。</p>
向山商業観光課長	<p>具体的には例えばイベントを商業者と併せてやっていこうじゃないかと、実験的に昨年はじめまして、今年それが実を結んだとして、きつね祭、5、6、7丁目 商業者の方が役立つということなので。</p>
N委員	<p>私から説明する筋ではないが、TMOというのは、ハードではなくてソフトをとにかくたちで、具体的にはH18年に災害がおきた翌年、商業のお祭りがまとまらなくて、自粛したこともあって、それを1本化しようということで、がんばれ岡谷フェスタということで、非常に盛り上がって、今年度もちょうどこれからですけれども、そんなことです。今まで市の方で補助金に対しまして寄附を頂いておりましたが、今はTMOのほうでお預かりして、その中で商店街ごとに使う内容を審議していくかたちになってきています。本年度を</p>

	<p>みますと、中央通だけを見ますときつね祭は1本にまとまりまして、そういうことを積み重ねていって徐々に駅前、中心市街地それから郊外に力を入れてくれないかという声も出てきます。そういうものに対してはご案内があったように、いろんな商業の勉強会やっていくものはないかと今度行われるがんばれ岡谷フェスタ、楽楽市についても、周りの消費者の人もスタッフとして入っていただいて、ご協力いただいて岡谷の商業というものを、もっと確固たるものにしていきたいとそんなことをやっています。</p>
D委員	<p>イベントをものすごくやっているんだけど、見たわけではないが、2ヶ月に1回ぐらい100円ショップ、カネジョウさんも季節外れのいっぱいあるなら、みんな出し合って100円ショップを2ヶ月に1回、どこかでやるとか。</p> <p>この間、長岡へ行ってきたら週に1回農産物、衣料、靴を早く言えば、屋台で持ち寄って商売をやっている。そういうことをしながら、市民も町場へ呼び込むことをやらないと、東急ができましたって言ったって行かない、なにか魅力的な活性化できる政策をこまめにやらないと魅力的なものを。そういうことをやらないと来ないと思う。ハードだソフトだって言っていないで。現実集まるのは、集まればって言って、商売できる人はやれと、そういう政策をやったほうがいいと思う。</p>
I委員	<p>指標のところなんですけど、後継者がいる店、いない店の調査はされていますか。</p>
向山商業観光課長	<p>全部ではないですが、H18暮れにTMOのほうで調査をしています。商業会ごとにヒアリングして、後継者がいないのもあって童画館通りでは未来塾という形で関わって、後継者にとっての勉強会、商業会によってはカラーが違うので現状を把握した上でそれぞれのところでやっています。</p>
I委員	<p>このままいくと人口ではないですが、自然減みたいの後継者がいないとどうにもならないですよ、経営不振とは違うが、後継者がいない店というのは、例えば5年、10年の年齢構成を見ながら、読めるんですよ、それを踏まえた上で計画を書くとか、特に前期の5ヵ年と見ると岡谷の商業の問題点とすると高齢化でどのくらいの店舗ができるかどうか、それとララの問題。そして中央通の問題、中期で5年と見ると厳しいと思うんですが、どうしても総花的なこと書いてしまっていますが、個々の計画の中ではあれもこれもできるわけがないと分かっていると思います。この3つが特に注意をしてやっていく必要があるというのが感想です。</p> <p>進め方ですが、どうしても同じ人がしゃべってしまうので、振っていただいたほうがいいかと思います。</p>
L委員	<p>目標指標については全く意味がないものだと考えます。今までの</p>

	<p>話の流れで、人口6万人を目指すのと全く意味合いが同じで、具体的な問題に対しての解決や、具体的なものとして、イベントをこういう形でやって、まちなかの活性を図るために、この施策をいつまでにやるというのが、目指す目標だと思います。入れた意図は違った視点で、理解できるが、これを入れたから、まちに賑わいが出るのかということではなく、もしかすると、成果としてこういうものを表す必要があるのかもしれませんが、5年、10年であり目指すべきものとして載せるにあたっては指標として載せるものではないと思います。</p>
向山商業観光課長	<p>全く同じ意見を審議会ができる前に商業者の方からいただきました、おかしいじゃないかというお話がありました。イベントの数も、それが商業に即つながるとは思いますが、見直ししたほうがいいのではないかと思っているところです。</p>
座長	<p>全体を通しての印象ですが、目標指標を掲げたことは、それで意味があると思いますが、指標の項目と数値については、かなりの部分で、これで本当にいいのかと思うものが多い。 当事者能力がない指標がある。当事者能力がある指標にしないと、それに対する緊迫感がでない。</p>
総務部長	<p>先ほどの話に戻ってしまいますが、行政の持分で、どこまで行政の範囲かということに返ると思う。</p>
座長	<p>市の長期ビジョンにならないという意味合いもあるのかもしれませんが。</p>
総務部長	<p>行政で目標を掲げ、行政としてどうできるか。それが、具体的な施策がどう打てるかというのはまた別の話です。難しいですが、ご指摘は承知しました。</p>
両角主幹	<p>時間がなくて恐縮ですが、この中では、サービス業や観光、農林水産業もあります。この後の全部を雇用の部分も含めて、ご意見を頂戴したいと思います。 C委員さんから何かありますか。</p>
C委員	<p>工業の方ですが、私も企業に勤めていまして、新しい仕事が出てくると、メーカーや、金型、メッキなどを探してみたりしますが、結局HPなどを見ると、県外や大阪の情報はあるが、岡谷の小さい企業の情報があまりない。メーカーを探すのに、もう少し岡谷には、こういうところがあるという情報や、市内で活用できる部分があるといいと思う。いざ探してみると隣にあったりするので、大阪のように町でやっている小さい企業を公開し、もう少し身近で使えるといいと思いました。 岡谷の技術専門学校も諏訪に比べて日時や内容が少ないです。諏</p>

訪は毎日やっけていて、パソコンの教室が毎日もあるが、岡谷はものづくりだけで、日も決まっています。日が少ないので、もう少し勉強できる場所も欲しいと思いました。

商業では、どんどん大型店がなくなっていくのは、工業と同じで、なぜ出て行ってしまうのか疑問。私たちにしてみれば、お店にもそこそこ人も入り、買い物ができ、大きい工場と同じに店が出て行ってしてしまうので、生活面でも大変。どうして岡谷から出て行ってしまふのか疑問です。

市街地の中央の開発の部分ですが、生活に密着しているスーパーとか、長地のアップルランドがなくなってしまい、郊外で生活に困っている人たちがいる。若い人たちは車でどこでも行けるが、川岸や長地の食べるものを買いたいというお年寄りの人たちが、そういう場所がなくなってしまうことに対し、中央ばかりに目がいって、郊外の困っている人に対する政策が余り感じられないと思いました。

杉本工業振興課
長

一番最初の受発注はC委員さんがおっしゃるとおりで、せつかくの仕事をやその町へ仕事を出すというのはもったいないこと。私どものPRが足りてないということで反省しながら話を伺ったところである。言い訳がましく聞こえるかもしれないが、展示会ひとつにしても諏訪圏でやる工業メッセに出られる企業も限られている。もっと小さい企業には2月にテクノプラザでもものづくりフェアが1社A3版一枚、A4版一枚で部品の2,3個持ってくるだけでも展示になるからやっけてくださいということで、大変多くの企業さんが何百社の企業さんから協力いただいて、イベントを打って隣の会社では何をやっているのか、お互い見せっこしましょうという取り組みを5,6年やっけてきております。そういったものを上手に使ってもらえればと思います。

インターネットの岡谷市のテクノプラザのHPに企業の全部のアンケートをとって、公開について協力していただける会社のデータを全部一般公開してしまして、どんな設備をもっていて、どういう技術があることを公開しております。私どもに電話1本いただければ、逆に伺って、近い会社をコーディネーターと一緒に探してやらせていただいております。

B委員

全体的に諮問案を読むと夢がある感じで書いてありますが、市民一人一人の自助努力と市のできることに明確に分かれています。細かいところを読むと市民が自分で考えてと書いてありますが、大きな見出しのところにはそれが出てきません。18・19ページのところの一番右側のところに市民総参加のまちづくりと初めて出てきますが、もう少し前のほうに書いていないと、やっけてくれると単純に思う人が多いのではないかと思います。細かな話ですが。

商業のことは地元の出身ではないので、物を買うには普段から見て、歩いて、楽しくて、よく見たら欲しい物があつたというのが理想ではありますが、歩ける街ではなくなっている。例えばみんなで

	<p>ご飯食へに行く、食べたならそれで終わりで車に乗って帰らなくてはいけない。そぞろ歩く雰囲気ではなくては、必要なものは売れますが、楽しむための付加価値のついたものは売れない感じはします。</p> <p>その楽しみのためにお金を使う余力のあるうちに、いろいろ少しずつやってほしいと思う。</p>
向山商業観光課長	<p>回遊性という形で書かせてもらっています。それをどういうふうな施策でやっていくか。これからはありますが、イベントを用意して、こういった施策のなかでそれを利用し、環境を整備して支援するということを考えています。</p>
B委員	<p>イベントやるときには、お金が落ちるのですか。</p>
向山商業観光課長	<p>それはもちろんあります。</p>
B委員	<p>それが継続していくかどうかということは。</p>
向山商業観光課長	<p>それが実際に、店の中に入ってくるお客さんかどうかというのは、個々の店の努力で、私たちの方では、施策の中で支援していきます。</p>
D委員	<p>この間新潟へ行ったときに、高速道路でPAから皆んな出られるようになっていて。そのそばに道の駅がある。それがものすごく活性化になっている。長野県と山梨はものすごく少ない。こういうことを市で道路公団に交渉することはできないか。また、できたら花岡の湊側に道の駅でも造るようにすれば、ものすごく活性化できると思う。</p>
中田総務部長	<p>164ページにスマートICの項目を入れてあり、検討に入っている。諏訪建設事務所で。それが今おっしゃられた部分だと思う。それがSAから直接出られる、直近の所に、そういった施設をつくるというと、まさに湊のところになる。ここに書かせてもらっているのもそういう意味合いを持っているものです。土地の形状とか道路の構造上の問題とか、かなり難しいらしいですが、私どものまちとしてはできればそういうところにつながると書かせてもらっている。</p>
両角主幹	<p>5章のときに具体的に話を審議してください。時間もなくなってきました、農林水産の項目にあれば、お願いしたいのですがどうですか。</p>
L委員	<p>前段で食の安全、これは農業に関してと、林業に関しては、安全・安心のまちづくりに関連したような話を説明いただいたが、基本目標1の項目と、この後出てくる部分との関連ですが、資料を見ている中では微妙だと思う。</p>

<p>両角主幹</p>	<p>食の安全は、この中で触れられてない。その意味合いの中で遊休農地を増やしているとか、意味合いで書かれているような農林業の振興と、そしてこの後、書かれている関連という。</p> <p>わかりやすく言うと林業では、基本目標3の9の中にある、防災であるとか治水であるとかののところと、ここの項目は全く意味合いとして違っているんですが、冒頭の説明だと関連があるような意味合いの説明だったが。</p> <p>広い意味では毎日ニュースで食の安全という意味では、通常の消費活動の中では通常ではなくなった何か発生したときに、危機になってきますので、それが基本目標3のなかでの危機への対応となかではできません。</p> <p>農林水産業については山を抱えているこの地域の中の治山、治水と言うのは、山の中の治山、治水することが広い意味では防災につながっていくという意味では関連があると思います。</p>
<p>L委員</p>	<p>僕の質問の仕方が悪かったので、次の基本目標のそれぞれの時に、また意見質問ということで出させていただきます。</p>
<p>I委員</p>	<p>商業と工業に関ってくることで、規制をかけるべきか、できるのか、規制をかけるのは違うのかもしれないが、例えば工場がなくなってそこへ大きな店舗ができる、逆もあって、お店がなくなって工場ができることはあまりないでしょうが。</p> <p>例えばトーハツマリーンさんが空いている。オリンパスさんも空いている。そこに店ができる、本当は工場ができた方がいいのではないかということがでてくる。民間のものだから行政でいろいろ規制をかけられないのかもしれませんが、民間で好きなようにやると、まちづくりとか、需要と供給のそぐわないものができてしまうのは、どうなるのですか。</p>
<p>向山商業観光課長</p>	<p>用途地域のことで都市計画法のなかで、郊外で工場跡地から大型商業出店のことですね。法制度のなかでは、できる仕組みができていると思いますが、それを岡谷は実質コンパクトシティでもあるようで、それを適用するのかどうかというのは考えたほうが良いと思う。それに規制をかけることによって逆に地域のほうで、店を開くことができないということもあったが、岡谷全体のなかではよく考える必要があると思います。</p>
<p>D委員</p>	<p>工業をやっていたところへ住宅を建てるということは環境問題でかなりお金がかかると思うが、ありえるのか。汚染の関係。</p>
<p>小泉経済部長</p>	<p>あるところとないところがある。</p>
<p>D委員</p>	<p>某会社が土地を買って損害賠償になったと聞いているが、それがいくらだと思うか。買った方がいいが、公害ででかい金を取っている。</p>

	<p>そういう問題も出てくる。</p>
小泉経済部長	<p>工場用地を宅地にする場合には、売るときに工場を持っていた企業さんが土壌については全部替えて渡す。</p>
D委員	<p>上諏訪みたいな網掛けみたいに、この地域の工業振興はなにか考えたほうがいい。それならあまり金がかからない。 税金をもう少しかけるとか。空いている土地にはかけるとか。いろいろ改革しないと、あれではどうしようもない。</p>
小泉経済部長	<p>店舗のところに工場を建てるのは、商業地域だからできないと思うが、逆に準工業のところに工場をやめて店舗が入ることは用途地域ではできるから、そのことをどうするか、大型店はある程度マーケット調査しますから、あまりマーケットのないところに出てくることはないと思うが、ある程度の規制はしないといけない。</p>
I委員	<p>大型店は爆弾と同じで、パーンと出てみんな無くなって、あまりよくないとすぐ出てしまう。残るのは焼け野原ですが、平気でやる。地元の人はそので生きていく覚悟があるので、簡単に「止めた」はないので、そういうのはどうなのかと思う。働きかけを積極的にしたらいいと思う。</p>
小泉経済部長	<p>支援策の中にありまして、そういう課題を持っているところはある。ある程度大きくなると どういう状況になっているか、これから19市で会議をやりますが、そのときにそういう設問がありまして、その状況を聞きながら、決めていきたいと思います。</p>
杉本工業振興課長	<p>実際には話題に出ているトーハツの跡地につきましては、工場を止める段階で、今まで製造業でやってきた土地でありますので、引き続き工場で作ってきてくださいと、直接会ってお願いしてきている。もちろん飲める条件もありますが、協力してくださる企業さんもありますので、法的規制はないですが、地道な努力は必ずやっていきたいと思っています。</p>
両角主幹	<p>時間となりまして、つきませんが、全体会議に移ります。残りの審議をしていただければと思います。</p>
	<p>(A部会終了)</p>

(2) B部会審議

M委員	<p>ちょっと質問ですけど、先ほど、説明は22、23だけではなくて、後ろの前期基本計画を説明されたように聞こえたのですが、この場では、22、23の中だけで話をするのですか。それとも、前期基本計画を含めて話をするのか。ここだけ確認したいのですが。</p>
岡本主幹	<p>22、23ページにつきましては、政策という形で大きいとらえをしています。この計画につきましては、65ページから基本目標2の分野になっておりまして、先ほど部長のほうからこちらの内容もご説明させていただきましてので、こちらの施策の部分も含めてご審議いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
J委員	<p>【保健・医療の充実】</p> <p>4-1 健康づくりの推進と言うところをお願いをしたいというか、感じることを述べさせていただきたいと思います。</p> <p>現状と課題という中で、現状についてはこれだけまとめていただいております。現状を踏まえてどういう形で計画に反映をさせていくかということが後段になっているかと思っておりますけれども、非常に取り組み項目がちょっと見えにくいような感じがするものですから、できればライフステージごとに区切っていただいて、そこで課題となる優先順位の高い課題を並べて、それに対して目標設定をしていくという形にいただければわかり易いのではないかと思います。ざっと見ていきますと目標数値に「定期的に運動している人」といきなり出ているので、果たしてどこでどういうふうに、若い人にもっとやれと言うのか、年寄りにもっとやれと言うのか見えにくいと思っておりますので、たとえば例ですが、幼年期、少年期、青年期、壮年期、中年期、高齢期、長寿期のように6から7段階位に分けていただければ、それぞれに重点的に取り組まなければいけない健康づくりの課題が見えてくるのではと感じました。</p> <p>歯科の方に関係をしているということで1つ資料を持ってまいりました。平成16年度の長野県の県民歯科保健実態調査というのがあります。ちょっと古いのですが、県は5年単位でしか、歯科に関する調査をしていないので、直近が平成16年となるのですが、ここに定期的に歯科健診を受けている人の状況ということで、12歳以下、13歳から19歳は比較的高い。これは学校に行っているので学校の制度の中で健診を受けないといけないということで7割とか8割と言う高い数値になっている。20代、30代では極端に減っていて10パーセントとか11パーセントと言う数字になっている。これに追随して、歯の喪失する歯の年代別の歯の残存指数の状況というのがある。40代を境に歯が抜けていく状況にある。たとえば40代で歯を磨きなさいとか。生活習慣、食習慣を見直しましょうと言ってもちょっと遅い感じがあります。20代でしたら自分は健康であるという意識が非常に強いのですが、生活習慣が乱れているということも考えられるので、ライフステージごとに区切って、岡谷市の状況と照らし合わせて健康づくりの指標を作っていたいただいた方がわかりやすいと感</p>

<p>中嶋福祉環境 部長 H委員</p>	<p>じました。</p> <p>要望としてお聞きしておきます。</p> <p>自分の健康は自分で守ると言う啓発ということが載っておりますが、有酸素運動という言葉が出ていますが、総体的にラジオ体操をやらして健康づくりに持っていったらどうかと思い、今現在、防災ラジオは時報と熊・サルの関係で、だいぶ遊んでいる機器と感じております。午後3時ごろ、私が思う時間ですが、全市的に防災ラジオに流してラジオ体操をやらせて健康づくりをさせるという方法ができればと感じております。</p> <p>自己管理ということになると血压管理と感じる。血压計を購入するにあたって補助ができないか。持っている人も多いと思うが、持てない人もいるので血压計を購入して自分で管理したらどうか。</p>
<p>中嶋福祉環境 部長</p>	<p>地域を主体とした活動をお願いしている中で、保健委員が各地域で活動してもらっている。保健委員の活動の中で支所や公会所で行う、健康づくりの集いなどで血压を計る機会がある。そうしたときに参加することにより、他の人とのコミュニケーションにより健康の部分についてもよい結果につながると思う。できるだけ啓発をさせていただく。</p>
<p>H委員</p>	<p>支所にはあることは承知しているが、公会所にあるのか。</p>
<p>小口福祉政策 担当参事 中嶋福祉環境 部長</p>	<p>あるところもある。</p> <p>保健師がそれぞれの地区に行く機会があるので、保健師に対応させる。個人に対する補助は考えていない。高齢者も年々増加するので地域への参加で対応していただきたいと思います。</p>
<p>K委員</p>	<p>67ページの(2)生活習慣病予防対策の推進のところ岡谷市医師会、保健委員会や食生活改善と連携して記載がある。保健委員会などについて説明を掲載することはできないか。</p> <p>保健委員にお話を聞いたが、地区で格差があると聞いた。有酸素体操をやったり、歩け歩けをやったりする地区とやらない地区がある。ある区長さんが保健委員は形だけだよなと発言されていた。形骸的な保健委員にならないような方法を考えたらどうか。</p> <p>特定健診について、保健委員が回ったと聞く。受診者が少ないので一人5名の割当があり、歩いたと聞くが、徹底したのか。</p>
<p>中里健康推進 課長</p>	<p>医療制度改正のなかで平成20年度から特定健診がスタートした。特定健診はそれぞれの医療保険者に義務付けられた。岡谷市は国民健康保険者として実施している。6月から9月の4ヶ月間を市内医療機関での個別健診として、集団健診から変更して実施している。</p> <p>開始当初は、制度の変更により出足が鈍いこともあり、健康推進課</p>

	<p>による電話による勧奨も行なった。また、保健委員にも協力依頼していただき宣伝をしていただいた。その結果、受診率も伸びた。</p>
K委員	<p>受診率の低い理由は。他市町村に比べて岡谷は低いのか。</p>
中里健康推進課長	<p>今年度からということで他市町村の数字が出ていませんで比較はできませんが、市では目標を35%と設定した。6、7月は10%と低かったが、ここきて15%から20%と伸びてきた。また、医師会の協力により一ヶ月受診期間を延長した。</p>
E委員	<p>受診率が低いと国からのペナルティーがあると聞いた。このことを計画に記載できないか。ペナルティーがあるならば市に協力し、早く受診したのにとという方が結構いた。漠然としていたため、いいといていた方も多かった。そういうアピールの方法は無理なのか。</p>
中里健康推進課長	<p>ペナルティーと言うのは最終年度の24年度に受診率が65%に達しない市町村に科すというものである。</p>
F委員	<p>66ページの健康づくりの意識の啓発については、自分自身の健康管理は自分でするこの通りだと思う。</p> <p>岡谷市健康増進計画は非常にわかり易く、平たく、しかも目標も市民の取り組む項目。行政の取り組む項目となっていてわかりやすくなっている。こういうものが各市民の末端まで行き届いてこそ啓発になる。部長の説明の中で各地区での集まりでやると言う説明があったが、集まる人の顔ぶれは決まっている。それぞれの項目に対して中間評価や後期計画があるので、広報等で親切丁寧に啓発していけばよいのではないか。すべては掲載できないと思うが、重点的な項目や評価をPRしていただければと思う。</p>
中里健康推進課長	<p>昨年度見直しをし、ダイジェスト版として全戸配布した。内容は市民に周知できたと思っている。細部については、それぞれの項目を徹底することが大事と思う。保健委員連合会で行なっているふれあい集会でも説明していきたいと考えている。</p>
M委員	<p>市が一生懸命いろいろな施策をやっていることはわかりますが、それを市民に徹底していくことは難しいと思っている。</p> <p>地域ふれあい集会で地域で進める健康づくりと書いてあるが、私の地区の新倉区では、ヨガの教室を開催している。参加者を見ると保健委員が参加しているだけである。文章では地域で健康づくりを推進するとなっているが、参加する市民がいないので仕組みづくりを考えないと計画がなりたたなくなる。市民に徹底させるためにどうするか。ダイジェスト版で流しても市民は目を通すだけである。どうすれば良いかと答えはわからないが、市民総参加の健康づくりの方法を考えてもらいたい。</p>

松本社会福祉課長	<p>より良い計画を作っても、末端まで周知し、知ってもらわないと計画は意味がない。知ってもらって使ってもらわないと成果がない。</p> <p>何が必要かと考えると決定的なものはないが、言われることは意識改革。改革には自分自身が変わらないとできない。人が人を変えることはできない。意識改革をどう進めるかと言うことを考えながら、行政も市民も一緒になって取り組んでいただきたい。</p>
G委員	<p>新型インフルエンザの危機管理について説明があった、子どもたちのことを考えると不安に思っていたので力強く思った。実際に新型インフルエンザが蔓延した場合、どの程度の患者数、死亡者数を予想しているのか。</p>
橋爪健康推進課副参事	<p>死亡者数は、最大で280人程度。患者数は、何千何百人となると予想されている。県の取り組みとして、10月14日に岡谷市の岡谷病院を会場に訓練が行なわれる。</p> <p>新型インフルエンザは、危機管理の要素が高いので、衛生部門だけではなく、危機管理も含めて柔軟的な対応を検討している。</p>
G委員	<p>新聞により訓練の実施を知った。厚生労働省の発表によると推計は人口の4分の1感染し、死亡者が17万～65万人。岡谷市で試算すると250人。各学校で1人から2人。多ければ3人の死亡者が出る。患者数はもっと多く、今までにない災害になるだろうと思う。危機管理と考えると教育部門も含め、岡谷市全体で休校なりの対応をすることによってよろしいでしょうか。</p>
E委員	<p>H i bワクチンの接種について、今秋に認可されたものの、任意接種であり、他市町村では実施していない。ぜひ、岡谷市が先駆けて実施してほしい。髄膜炎を予防するワクチンで、アメリカでは、20年前に認可されていたものである。子どもには必要なワクチンであり、1年4回接種が必要であるが、1回6,000円かかる。市で補助することで、子育てにやさしいまちになり、人口増につながるのではないかと考える。</p>
H委員	<p>各区に医師を派遣し、予防接種ができないか。開業医がない区などは、足がない人にはありがたし、接種率も上がるのでは。</p>
中里健康推進課長	<p>市内の医療機関や諏訪管内どこでも接種できることとなっている。公会所より医者に行けばいつでもできるという方が便利と考えている。</p>
H委員	<p>私は医者に行かないので、公会所の方が行きやすいと思った。</p>
中嶋福祉環境部長	<p>かかりつけ医制度を推奨している。かかりつけ医をできるだけ持つていただきたいと考えている。</p>

M委員	<p>病院統合しても医師不足が解消するかわからないが、医師一人いなくなると1億5千万の収入減と聞いた。塩嶺病院に通院しているが大学から派遣されているので1年に1回先生が変わる。医師が代わらない病院を望む。医師を呼ぶための方法はあるのか。</p>
茅野病院事業統括事務部長	<p>全国的に医師がいない。関連大学の医局の医師がいる病院にローテーション派遣していたが、今は大学にも医師がいない。各病院は、医師を確保するために存続を賭けてやっている。どうやったら医師を確保できるのか。関係大学に院長はじめ、病院の職員がお願いに伺って、医師の派遣をお願いしているがなかなか効果が得られていない。民間の医師派遣会社をお願いし、医師1人に対し成功報酬の制度を利用しているが成果がでていない。この傾向は数年続くとと思われる。</p> <p>内科や外科などのメジャーな医師が1人いない場合は、年間1億5千万円の減収。耳鼻科、皮膚科では、患者数にもよるが1億円の減収となる。どこの病院でも苦労しているが医師の確保ができない。</p> <p>現在、岡病、塩病とも3分の2の医師は、病院に専属となっている。3分の1がローテーション医師となっている。</p> <p>解決策として検討している1つの方法として給与を上げる方法がある。ところが市立病院の医師は公務員であり、給与体系が決まっている。給与体系を崩してまで高額の給与を支払うことはできない。別の方法として、医師の職場環境の改善として老朽化している病院を建て替える方法もある。いろいろな部分で検討しなければならない。</p>
G委員	<p>病院統合の方向に動いているが、どんな病院にしたいのかが、これを読んでも、伝わりにくい。医療スタッフの確保と経営の安定化のための設備が整った病院になると思うが、それだけでいいのだろうか？ 茅野の諏訪中央病院をみるとボランティアが働いていたりして温かい感じがする。岡谷病院とは違った印象を受ける。諏訪中央病院の経営面はどうなっているか分からないが、そこで働く人の気持ちが積み上げた充実した感じを受ける。せっかくだくさんのお金をかけるなら、他の地域の方々にも利用していただける病院になればと思う。</p>
茅野病院事業統括事務部長	<p>諏訪中央病院では院長の今井先生、鎌田先生の考えで地域医療を重要に考えてきた経過がある。病院自体の方針が市民に密接した暖かい医療を進めてきた。岡谷病院の今後の病院づくりを考えるうえでも学ぶべきものがある。医療環境が厳しくなり、岡谷市の市立病院を存続させることが難しくなっている。病院を存続させないと市民の皆さんが大変なことになる。今年策定する公立病院改革プランのなかでも、何をどうしていくのか、検討をして進めていきたい。</p>
F委員	<p>母子保健の充実の目標指標が「むし歯のない子の割合」になっているが、むしろ乳幼児の健康診査の受診率の方が良いのではないかと感じる。むし歯はかなり良い状況を示している。出生率の関係で子ども</p>

	<p>の死亡率を軽減するためにも乳幼児の健診を前面に打ち出すほうが良いかと思う。むし歯という局部的なとらえとを感じる。</p>
<p>中里健康推進課長</p>	<p>乳幼児の健診は95%から98%の受診率である。むし歯は1歳6ヶ月と3歳の分けで見ると、3歳で伸びてしまう。この危機感を持ってもらいたいとの思いがある。乳幼児健診は、ほとんどの子が受診している状況であり、指標にすると100%という状況になってしまう。</p>
<p>F委員</p>	<p>出生率を目標にして、妊婦指導などいろいろやった結果、あるいは、いろいろ母子の状態を計るには、結果論として出世率が増えるとか、全体の活動がその成果に結びつくのはむし歯ではないと感じる。母子保健の活動の指標ではどうかと感じた。</p>
<p>G委員</p>	<p>母親として、むし歯に対する意識は若いお母さんを含めてかなり高いと思う。しかし、限られた予算の中で政策を選択していく場合にむし歯に対する取組みは現状維持が良いのではと思う。別の部分で新しいことに目を向けて見ては思う。</p>
<p>J委員</p>	<p>自身も計画中にポツンとむし歯の数がでてきたことに困惑した。1歳6ヶ月と3歳とくくったときの幼年期には、健康上の課題にはむし歯の問題がでてくるとは思うが、むし歯の背景には、生活習慣であり、歯を磨けではなく、食事やおやつのとり方をベースに考えて捉えていくのであれば目標指標としては良いのでは。大勢の人がかかわって取り組める。食生活改善の取組みや歯科医師とした取組みもでてくる。健康づくり、保健予防と言うことで見るとライフステージごとで区切っていくことが良いのではないかと思う。</p>
<p>K委員</p>	<p>【福祉の充実】 地域福祉の推進の地域サポートセンターの設置促進で、地域福祉の拠点づくりということで地域を中心に、災害時に高齢者とか障害者を見守るということだろうと思う。地域差があって私の地域ではなかなか立ち上がれない状況にある。そういう状況下でこれだけの文章では設置促進の思いが伝わらないと思う。ただズルズルと行ってしまふことが懸念される。やっている区は、区民が協力しているところもある。市全体のイニシアティブをとるような方法を考えないといけない。文章に記述すべきではないか。</p>
<p>松本社会福祉課長</p>	<p>指標として設置数を設定してある。10年経過しているが、設置された区の数、全体から見ると少ない。市としては、サポートセンター設置が地域福祉の推進の条件であるという位置づけ、具体的な行動を区や地域に働きかけをしていきたい。今まで一定の働きかけはしてきたが弱い。その結果が設置数の少なさになっていると思う。社協と行政が一緒になって区長や地域に説明をしていかなければ行けないと思っている。表現が弱いと思われる部分、行動等の表記など考えな</p>

<p>K委員</p>	<p>ければいけないと思う。</p> <p>立ち上げを見てみると区長と社協が責任を擦り付けていると感じる。もちろん社協が中心となると思うし、教育を受けた方が何人かいる。毎年2名くらい。私の区にも10名くらいはいるが、そうした人たちが集って何かしようという雰囲気にならない。区長が責任者なのか、社協が責任者なのか明確にすれば促進されるのでは</p>
<p>中嶋福祉環境部長</p>	<p>毎年、サポートセンター設置区の状況を、設置されていない区の参考として研修会で報告している。センターの責任者はそれぞれの地域の特色を出して設置していただいている。これからの福祉は行政では手一杯になる。地域みんなで支えていただきたいと思います。それぞれの地区でボランティアを2名、推薦いただき、5年間で10名を養成してきた。関心を持ち、連携できた地区は早い設置ができています。地区でそれぞれ事情もあり、あわてることなく長いスパンで設置すること、無理すればハレーションも起きる。行政も社協も積極的に働きかけをしていき、疑問等解決して無理のないサポートセンターの設置をお願いしていきたい。</p>
<p>H委員</p>	<p>サポートセンター設置が進まないのも、老老介護という現状がありお互いに体制が息詰まっていると思う。行政に頼るのではなく、受益者負担で公平性を持っていくべきと考えるがどうか。</p>
<p>中嶋福祉環境部長</p>	<p>サポートセンターでと言うことか。</p>
<p>H委員</p>	<p>サポートセンター設置には、団体の長が運営に携わる。団体の長も老人であり、老老の助け合いになる。運営も大変になる。利用する人から利用料をいただき、運営経費にあてたらどうか。</p>
<p>小口福祉政策担当参事</p>	<p>区の中には、いろいろな団体が活動している。その団体だけでは活動が息詰まってしまっていることもある。だからこそ地域のなかで、誰がどのような活動をし、役員決めに困っているなど地域の中でどうしたら良いか考えていただきたい。区の中でどんな団体がどんな活動をしているのか知ることが必要。助け合うこと。場合によっては統合など、自分たちで区の中のことを考えていただきたい。</p> <p>行政だけではなく、区のなかにおいても団体のあり方を見直し、自分たちの区にあった形をつくって行くためのきっかけがサポートセンターではないかと思っている。</p>
<p>H委員</p>	<p>サポートセンターも歴史が浅い。各種団体の理解も浅い。一つの行事をやるにしても全区民が参加するわけではない。出てきた受益者がやるべきと私は考えた。</p>
<p>F委員</p>	<p>地域サポートセンターについて部長から5年、10年かけてと言われたが、むしろいち早く加速すべきと考える。21地区あって5年で</p>

	<p>12地区では目標ではない。やるのであれば5年で全区やりましよう と掛け声をかけないと、10年経ってこのような状態で、各区に相当 ばらつきもあります。サポートセンターの成果も上げているところも あるし、これから形をつくって魂を入れるところもある。かなりのお 年寄りが増え、これからまったく違う社会になる。10年で完成と言 うこの目標では弱すぎる。ここに掲げる以上は、行政が5年で21区 につくるという行政がリーダーシップをとることが必要。社協に任せ るのではなく行政が進める。社協がひっぱると誤解されているところ もある。目標値を上げた方が良いのではないかと感じる。</p>
<p>J 委員</p>	<p>人材育成は重要と考える。高校のクラブの意見交換でも素晴らしい 人材がいると力強く感じた。いろいろなところでボランティアをして いる。そういう人材を後押し下支えしてもらうことを入れてもらえたら 良い。</p> <p>工業、産業振興にもつながるが、障害者の就労は、ふたつの分野の 交わる部分だと思うので、どこかに入れてもらえたらと思う。</p> <p>高齢者の問題で医療介護の中でも認知症が必ずでてくる。体は元気 だが精神疾患がでる認知症が問題になる。認知症の記載はあるが、医 療面、介護面でももう少し具体的にあれば良い。</p> <p>92ページに目標数値として「要介護認定率」がいきなり出てくる。 91ページの介護予防に取り組んだうえでの、この程度に抑える目標 と思うが、関連性をわかりやすくつなげた方が良いと思う。</p>
<p>M 委員</p>	<p>高齢者は65歳以上が高齢者になるが、団塊の世代の社会参画が 地域サポートセンターにつながれば良い。会社を辞めサンデー毎日にな ると、家に居て8時間何をするか考えなくてはいけない。自分で何 をするかを考える能力がなくなっているので、きっかけをつくって もらえると良い。自分から変われば良いが、変わるきっかけをサポー トセンターが作って引っ張り出してもらえれば良い。</p> <p>国民健康保険を市でやり、市立病院を運営し、メタボ健診を市で行 っていて、岡谷市の中で完結している。これらをシステムのなかで上 手くつなげれば、病気の予防や健康指導につながるのではないかと。個 人情報の問題もあると思うが、ITでデータをうまく使って保険料や 医療費削減につながれば良い。</p>
<p>E 委員</p>	<p>92ページに「情報提供に努めます」とあるが、情報提供にもいろ いろある。何を見て良いかわからないので、具体的にどう提供するの か記載がすれば良いと思う。</p>
<p>F 委員</p>	<p>今後一人暮らしがますます増える。10年後のシミュレーションを しているのか。シミュレーションの上にしたっての施策をつくっている のか不安。民生児童委員が見回っているが、7、8人見ていたものが 15人以上も見ようになっている。倍に近い負担になっている。 民生児童委員だけでは無理になっている。国や県に働きかけてほし い。身近なところに本人の気持ちになって心配してくれる人がいるこ</p>

	<p>とは大事。民生委員が増やせなければ、それに変わる仕組みを考えるなど、社会の仕組みを今から作らなければいけない。一般論的なものが多く、具体的なものを入れてほしい。まわりに聞いても同じように言っている。</p>
小口福祉政策 担当参事	<p>厳しい財政事情で、行革で予算を減らし人を減らすなかで、行政がやることと地域でできることをしっかり見極めながらやるためにも、地域のサポートセンターが核になると思う。本当の意味での地域サポートセンターを地域の方自身が考えていかなければいけない。</p>
岡本主幹	<p>時間の都合もあるので、この辺で部会を終了したい。配付した資料はL委員さんの意見が漏れていたのを追加した。質問項目もあるが、議論が深まり時間がないので、全体会議で答えることとしたい。 3時10分から全体会議を開くので、それまで休憩とする。</p> <p style="text-align: center;">(B部会終了)</p>

(3) 全体審議

座長	<p>それぞれの部会から報告をお願いしたい。</p>
両角主幹	<p>A部会「基本目標1」について概要を報告 (略)</p>
座長	<p>【基本目標1】 ご意見があれば出していただきたい。 資料のなかにM委員から、工業、商業と同じ並びで農業、林業、漁業の策施が盛り込まれているが、扱いが同じで良いかということか。</p>
M委員	<p>農林や漁業には、産業として捕らえるだけの規模や基盤があるのかと思う。違う方で考えたほうが良くないか。</p>
涌井農林水産 課長	<p>山林が67%で森林そのものはある。森林を整備する業者は森林組合のほか3者ある。輸入外材が高値で取引され、国産材も高くなり、業としてとらえるには追い風になってきた。長野県では森林税が創設され、一層間伐が進むと思う。そのことが自然環境整備につながる。漁業も諏訪湖をかかえ、数は多くないが農業と兼業して、ワカサギの採卵などを主な業として行っている。</p>
M委員	<p>それを否定するのではなく、市の施策として業としてやっていくほか。55ページの就業人口で林業が18人、漁業が18人しかいないのに、市が大々的に振興として捕らえるほどのボリュームがあるのか。その人にやるよりも、パワーがあるのなら、工業なり商業につき込んだほうが市のためになるのではないか。やらなくて良いのではなくて、やるのならパワーを活かした方につなげたほうが良い。全否定しているわけではない。</p>
座長	<p>参考の意見とされたい。</p>

座長	市主要計画の一覧表に、岡谷市工業活性化計画（平成6年）、岡谷市商業振興ビジョン（平成9年）、岡谷市農業振興地域整備計画（昭和48年）があるが、今も生きているか。こういう長期の計画とどう整合がとれていくのか。
小泉経済部長	工業活性化計画は今年度策定中で、平成6年にできたが改正という形で新しいものに変えようとしている。商業振興ビジョンは、今後作っていかなくてはならないと考えている。
涌井農林水産課長	農業振興ビジョンは、農業振興地域の関連で指定当時からのものである。森林整備計画については、現状に見合った見直しを図りながら促進していきたい。
小泉経済部長	整合性については、商業の関係については、中心市街地活性化基本計画などでTMOを作るなど整合を図っている。
座長	ほかに何かありますか。もしあれば後でお願いしたい。 続いて、B部会の基本目標2について、部会の報告をお願いしたい。
岡本主幹	B部会「基本目標2」について概要を報告（略） 事前に連絡いただいた質問について答えさせていただきたい。
座長	時間がないので、説明の中で出させていただきたい。
E委員	【基本目標2】 平和のための自転車国際大会を国内で開催したいというフランス人がいる。広島を希望したが交通整理でだめで、長野県でどうか言っている。200km必要で交通整理で長野県警も協力が必要になる。やまびこ公園ではアップダウンが足りないが、絹のシルクロードに合わせたら、素晴らしいイベントになる。
座長	具体的な提案なので参考としてもらいたい。どこが担当するのか。
向山商業観光課長	観光振興で商業観光課で担当する。総合計画の中には産業遺産を歩くというキーワードもあり、製糸の観光振興を考えていかなくてはならない。具体的な施策としてできるか、ここでお答えすることはできないが、近代化産業遺産を使うことは考えていきたい。
B委員	新型インフルエンザや東海地震などが起きたときに、市でできることは限られている。知らない人が多いので、市報で知らしめてはどうか。パニックにならないか心配で、行政にできることを超えると想像する。
中田総務部長	新型インフルエンザでは、長野県の訓練が10月14日に岡谷市を

	<p>会場に行なわれる。現在、対応を練っているのでまとも次第市民の皆さんにもお知らせする。防災対策もいろいろなことをやってきているが、災害は忘れた頃にやってくるので、講習会等も開いているが重ねて今後も進めていきたい。</p>
I 委員	<p>病院で、75ページに市立病院で循環器に力をいれていくとある。塩嶺病院でやっているが、一人の先生がいるだけで、その先生がいるからできる病院なのか、先生が居てもいなくてもできる病院になるのか教えてほしい。</p>
茅野病院事業 統括事務部長	<p>塩嶺病院は循環器呼吸器センターを6月に設置し、力を入れている。岡谷市出身の畑先生が日大のバックアップを受けて、執刀しながら院長を勤めている。一人の先生がいると、日大の医局でもサポートして、心臓血管外科の先生を派遣していただき、全体が動くようにサポートしてもらっている。</p> <p>75ページでは、最終的に経営統合して、施設統合をしようとしている。その際は、メインのひとつとして循環器系が中心になるように総合計画に盛り込んである。</p>
I 委員	<p>畑先生がけがをしたりしてできなくなったときにも、できるような体制をめざしていくのか。</p>
茅野病院事業 統括事務部長	<p>めざしていけるかどうかわからないが、めざしていきたい。</p>
I 委員	<p>バレーボールのまちもスーパー監督がいなくなると、残念ながらピンとこないものになっている。ひとりの人に期待したり負担になってはいけないので心配している。</p>
茅野病院事業 統括事務部長	<p>めざしていくという確答は難しいが、やる以上それに向けて努力しなければいけないのは事実。</p>
D 委員	<p>公募市民債は、最近良く使っているが、借金であり返さなければいけない。結果的にどこかの改修に使っているが、今後も続けるのか。</p>
中田総務部長	<p>今年で2年目だが多くの応募があった。神明保育園の改修に使ったが、市民債を発行するために事業を行うのではなく、事業を行うのにその縁故資金を市民債という形で借りるものである。通常は10年やもっと長期に返すものを5年で返すため金利を考えても、市にも有利になり、市民にとっても通常の利率より良いので両者ともにメリットがある。何よりも市民が自ら市政に参加することに意義がある。市民債の発行のために特別事業をつくるわけではない。4億数千万円の応募があったので、事業があれば今後も続けていきたい。</p>
D 委員	<p>金利面ではどうか。</p>

中田総務部長	通常10年で借りるものが5年返済になるので、市側にも金利的に有利になる。
D委員	市の財政にも負担にならないという解釈で良いか。
中田総務部長	もちろんそのとおり。
M委員	認知症で施設に入る人が増えているが、待機が多いと聞いている。待ちの人が入れる施設をどんどん建設できる状況なのか、地域で待っている状況なのか、民間施設もあるのか、これからは民間でいくのか。
小口福祉政策担当参事	認知症の方には老人ホームやグループホームがある。介護保険の対象とされ、事業計画の中で保険者の諏訪地域全体で施設が位置づけられている。かつては地方公共団体や社会福祉法人しかできなかったが、今では株式会社もできるようになっている。基本的には事業計画に基づくなかで定めていく。民間で整備するようになっているが、働く介護職員の確保の問題もありトータルで考えなくてはいけない。
F委員	障害者の福祉のなかの目標指標に「施設入所者の地域移行者数の推移」があるが、どういう意味を持つのか説明してほしい。
松本社会福祉課長	平成11年の統計数字があるが、障害者自立支援法という法律に基づいている。いろいろな施設があるが、施設から地域で暮らせる方策を考えながら、グループホームなどをつくることを支援している。何年には何%地域に移るというも目標をつくれという法律になっている。
F委員	民間に移行するという解釈もできるのか。
松本社会福祉課長 座長	そういう意味も含まれている。 目標指標を盛り込んだ事は、意義があるが施策内容と合致していないものが目につく。適当な指標がなければ、出さない方が良い。 例えば、地域福祉の推進の施策の目標指標が「地域サポートセンターの設置数」で、12地区が目標はおかしい。全ての施策に共通した内容だが検討していただきたい。
中嶋福祉環境部長	庁内でも議論したが、参考とさせていただきたい。全体に共通している。
座長	ほかにありますか。なければよろしいでしょうか。事務局よりお願いします。
小坂主幹	配付した第4回開催通知で次回開催日時、内容、部会分けを案内会議録の確認をお願いしたい。今回は日にちもないこともありメー

座長	ルでの案内もしたい。
E委員	ほかになければここで締めたいと思う。 たくさんのご意見、貴重なご意見をいただきありがとうございました。以上で第3回基本構想審議会を終了します。おつかれさまでした。

5. その他

6. 閉 会